



2026 年 10 月 1 日

各 位

会 社 名 株式会社トライアイズ
代 表 者 代表取締役社長 岩尾 俊兵
(コード 4840 東証スタンダード)
問 合 せ 先 取締役 COO 兼 CTO 小林 尚生
電 話 03(3221)0211

株主・投資家の皆様からのお問い合わせについてのご回答(2026 年 9 月)

日頃より当社へご関心をお持ちいただき、ありがとうございます。

2026 年 7 月 29 日に開示しました、当社の「情報開示方針」のうち「3. 株主・投資家の皆様からのお問い合わせへの対応について」に基づき、前回開示後から 2026 年 9 月末までに、株主・投資家様より頂戴した主な質問とその回答について、下記のとおりお知らせいたします。

なお、本開示は投資家様への情報発信の強化とフェア・ディスクロージャーを目的に、毎月末を目途に開示するものです。

記

当社の情報開示方針について

Q1. 2026 年 7 月 29 日付「情報開示方針について」において、株主・投資家からの質問への回答を「月 1 回を目安」として開示するとありますが、必ずしも毎月末に開示されるわけではないという認識でよいでしょうか。

当社は、株主・投資家の皆様からのお問い合わせへの回答について、原則月末を目安として開示しております。なお、回答内容の確認状況等により、実際の開示日は前後する場合があります。

当社の M&A 方針についての質問と回答

Q2. 今後 M&A を継続的に進めていく中で、事業を広げすぎることにより、買収先の管理や経営が行き届かなくなる懸念はありませんか。

当社としても、M&A を継続的に実施するにあたり、買収後の経営管理を適切に行うことは極めて重要であると認識しております。

当社は、M&A の件数や規模を拡大すること自体を目的としているものではありません。新経営体制における成長戦略「TRIIS2.0」に沿った案件であることを前提として、対象会社の事業内容、財務・法務等の状況、取得条件、将来の収益見通しに加え、取得後に当社グループとして適切な経営管理及び PMI（買収後の経営統合）を実行できるかという点も含め、案件ごとに M&A の実行可否を判断してまいります。また、M&A 実行後についても、当社がグループ全体の経営戦略、資本政策、予算管理、重要な人事、会計・財務報告、内部統制、リスク管理等を適切に統括するとともに、必要に応じて当社から役員及び人材を派遣するなど、グループとして適切に管理できる体制を構築してまいります。

今後についても、買収後の経営管理及び企業価値向上までを一体として考え、適切な管理体制を構築しながら M&A を進めていく方針です。

株式会社 LIMNO について

Q3. LIMNO の買収提案は、どのような経緯で当社に持ち込まれたのでしょうか。

当社は 2026 年 3 月に新経営体制での新戦略「TRIIS2.0」を発表し、上場・未上場にこだわらず連続 M&A 及び最先端の経営科学等を用いたバリューアップを掲げております。こうした発表以降、多数の M&A 仲介業者から案件紹介等のご連絡をいただき、当社は複数の M&A 仲介業者と案件紹介を目的とした契約を締結しております。

LIMNO についても、こうした M&A 仲介業者のうち 1 社から案件の紹介を受けたことが、本件検討を開始した経緯です。

Q4. LIMNO の過去のオーナーについて、バックグラウンドチェックは行ったのでしょうか。

当社は、買収先の過去のオーナー（法人・個人）に対してもバックグラウンドに関する調査を行っており、こうした調査の中で、懸念される又は対処すべき事項についても把握しております。一方で、鳥取で実際に現場を歩き、現場の声を収集する中で、鳥取三洋電機から続く技術・ノウハウと現場の熱い信念に触れ、オーナー変更および過去のファンド等の影響を排する形で LIMNO の成長を支援することとなりました。

Q5. LIMNO のデュー・ディリジェンス（DD）が終了していない基本合意の段階で株式取得に関する開示を行ったことについて、どのように考えていますか。

一般的に DD は基本合意後に行うものであります。LIMNO については、本案件については、当社に案件が持ち込まれた時点で、他社による DD 結果が先行して出ている状態での紹介であったという特

性から、一般的な案件よりも DD 関連の資料・情報が整っていたという個別事情がございました。もっとも、当社は他社による DD 結果のみに依拠することなく、追加の DD を継続して実施しており、丁寧かつ慎重に調査を進めてまいりました。

Q6. LIMNO の 2025 年 9 月期の純資産は約 14 億円で黒字であるにもかかわらず、株式取得価額が 6 億円であるのはなぜでしょうか。多額の借入金があることが理由なのでしょうか。また、借入金額について教えてください。

LIMNO の株式取得価額 600 百万円は、純資産額との単純な比較や、借入金の多寡のみを理由として決定したものではありません。当社は、本件株式取得の検討にあたり、非公表の情報も含め、検討過程において開示を受けた各種の情報を分析した上で、LIMNO の株式価値を評価しております。当社による価値算定や評価内容の詳細までを開示することはできませんが、既の開示した内容のとおり、LIMNO は直近では黒字を計上している一方、売上高は継続して減少している状況にあります。また、ファンド等による過去の運営によって現場が疲弊している様子も見られたことから、取得後の経営に対して多くの労力を投入する必要があるという点も、株式価値算定における重要な要因となっております。また、企業の貸借対照表に計上される負債には、金融機関からの借入金だけでなく、買掛金その他の事業活動に伴う各種の債務が含まれるため、負債総額をそのまま「借金額」と捉えることは適切ではありません。当社は、こうした業績及び財政状態に加え、将来の収益見通し、取得後に必要となる経営改善等の各種要素を総合的に検討した上で、株式取得価額を決定しております。

なお、LIMNO の借入金残高については、現時点において個別の金額を開示しておりません。今後も LIMNO を含む当社グループの財政状態について、法令及び東京証券取引所の規則等に基づき、適時・適切に情報開示を行ってまいります。

以上